

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400268
法人名	吉岡林業有限会社
事業所名	グループホーム妙義の里のぞみ
所在地	群馬県甘楽郡妙義町諸戸88 (電話) 0274-73-2369
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】(H19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	3 人
常勤換算	4.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院 公立七日位置病院 妙義診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは妙義山麓にあり、山を一望できる。前には田園、コンニャク畑が広がり自然環境に恵まれた閑静な場所に立地している。「此処に集う者、皆家族」と自分達の理念を掲げ、利用者に対してより良い生活を提供できるよう支援している。また利用者の生活暦や現状をよく把握しており、利用者も職員にたいして労わりの表情など見受けられる温かなホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回での評価の改善課題については全職員が認識し利用者がその人らしく生活でき、安全に過ごせるように改善を図ってきた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については職員と共に評価を実施したが、そこで明らかになった課題に関して具体的に検討するには至らなかった。今後管理者と職員による改善計画シート等の活用により、改善を促進し質の向上につながるよう期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議では自由な意見交換を行っているが、評価結果について検討はされていない。推進会議を活かした取り組みとして、評価を議題として取り上げ、自己評価や外部評価の取り組み状況などを報告するなど、ケアの質をより高めることを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族等の意見や苦情を積極的に聴き、会議等で話合っている。より運営に反映させるために、家族会の設置を考え所内行事に参加を促進することや、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みづくりをすると更に良いのではないかと。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人々の訪問があり、日常的な付き合いがある。地域での行事や小学校の防災訓練への参加、花火や児童館などの行事参加など地域活動に利用者と共に参加し地元との交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の立場に立った家庭的な環境の理念は作り上げている。地域密着型サービスとしての役割については、理念に明示されていない。	○	地域密着型サービスとして、事業所内だけでなく、入居者が地域の中でその人らしく生活することが出来るような地域との密接な関わりを持つための理念を期待したい。また、パンフレット・利用案内についても明示してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日々のミーティングで管理者・全職員が共有し、入居者に対してより良い生活を提供するよう取り組み、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々の訪問があり、日常的な付き合いがある。地域での行事や小学校の防災訓練への参加、花火や児童館などの行事参加など地域活動に利用者と共に参加し地元の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を全職員で閲覧して話し合い、改善点についての研修を実施している。	○	自己評価は職員と共に行い、外部評価の結果については改善点を明確にして、管理者・全職員による改善計画シート等の活用により、改善を促進し、質の向上につながると更に良いのではないかと。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い自由な意見交換ができています。ただし評価についての検討事項はなく、また、自己評価・外部評価についても触れられておらず、活かした取り組みの記録はない。	○	運営推進会議では、評価について議題とし、自己評価や外部評価で明らかになった検討・懸案事項の取り組み状況や評価の結果を報告し、参加者から改善策のアドバイスをもらうなど、評価を活かすための取り組みを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月地域ケア会議に出席し、町と共にサービスの向上に取り組んでいる。	○	今後はさらに事業所からの積極的な情報提供を行うと同時に、町役場から行政の最前線の情報や、地域についての考えなどを伺い、継続的な連携関係が図れるよう働きかけてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の料金支払いは必ず家族が来所して直接ホームへ支払うようお願いしている。その際、それまでの利用者の暮らしぶりや健康状態等の様子を報告したり希望を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応等の窓口を利用案内や所内に掲示している。家族等の意見や苦情を積極的に聴き、会議等で話し合っている。	○	家族会等の設置を考え、所内行事に家族の参加を促進することや、家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みづくりをすると更に良いのではないかと。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動離職は開所後1名のみで、ホームは入居者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制が重要であることは理解しており、配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修会・講習会や消防訓練への参加を交替で行っている。また、研修報告を会議で行い全職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交換研修に交替で参加し、同業者からの学びを運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時、本人の生活歴や家族の希望をよく確認し、サービス開始後もその情報を理解した上で、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な利用者とのやりとりの中で、いたわりやお礼の言葉かけが職員にあり、本人を介護される側だけの立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、支え合う関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりのそれぞれの思いや希望がひきだせるような声をかけ、かかわりを持ち、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らし続けることを支えため本人や家族の要望を聴き、個別の介護計画を管理者、ケアマネジャー、職員参加の月1回の会議の中で作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月間の介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、月1回程度は、アセスメントを行い会議や申し送りの際に内容に変更点等ないか話し合いを行っている。また状態に変化があれば計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態が重度化していく場合でも、医療処置を受けながらのホームで継続して生活できるよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師による継続的な医療がうけられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態が重度化した場合、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医と話し合いを行っている。重度化した場合や終末期のあり方については早期から話し合う体制は出来ていない。	○	重度化に伴う場合などは、早い段階から意思確認を本人や家族と医師で行い、事業所が対応できる最大のケアについても説明を行い、意思確認書を作成し、状況変化に応じて繰り返し話し合うなど、全員で方針を共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけの対応を行い、利用者の尊厳を大切にしている。記録等も事務所で管理し、個人情報の取り扱いに注意している。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者が考えていることや好み、その人らしさを把握して、一日一日を利用者が「良かった」と言えるように、一人ひとりのペースを尊重し希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材(ジャガイモを使ったコロッケ)を献立に取り入れ、食材を話題にして食事が楽しめるようにしている。利用者と職員と一緒に片付けたり、テーブルを拭いたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前の時間帯で週2回の入浴日を設けているが、出来る限り本人の希望にそえるようにその都度伺っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の前に畑があり、種まき、草むしり、収穫などや洗濯物、おしぼりたたみなど暮らしの中で楽しみや役割が出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームには広いベランダに出ることも多く、庭にある東屋風の場所で歌を歌ったり、バーベキューを楽しむこともある。洋服の買い物やお花見、畑に行くとナスを収穫するなど戸外に出られるように支援している。お盆の墓参りなど本人の希望にもそえるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者と全職員は利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族、訪問者等に心理的圧迫をもたらさないことが重要であることを理解している。日中は全て鍵をかけず、利用者が外出しそうな場合は守り等を行い対応し、安全面を配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の意見から避難階段に加え、避難スロープを取り付け、災害時の対応をしている。地域で行われる防災訓練に職員と利用者で参加している。緊急時の連絡先は所内に明示しているが手順等のマニュアルの整備や地域への働き掛けが出来ていない。	○	昼夜を通した災害時の対応マニュアルを作り、それに沿った避難訓練を地域の人々と行い、確実な誘導が出来るようにしてもらいたい。近隣での地域協力会等の設置を呼びかけ、警察署、消防署の協力もいただき具体的な支援体制に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量・体温などについては毎日確認し、記録し、健康管理に努めている。好みのものや時期に収穫される野菜などを献立に取り入れている。栄養状態や体重をかかりつけ医に診てもらい助言を受けて支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は、居間と対面式に繋がっており、職員は調理しながら利用者の様子を見たり、会話をしたりできる。利用者は料理の様子が見え、においを感じながら食事の時間を楽しみに待つことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、使い込んだ筆筒のある部屋、写真が沢山貼られた部屋、テレビのある部屋など利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。また、居室以外でも利用者が家族と個別で話せるコーナーを設けている。		